

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	69	学校名	静岡県立天竜高等学校	校長名	渡辺二三彦
------	----	-----	------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

天竜地区における地域人財、専門人財育成の拠点校として、地域の企業、大学、団体等との連携・協働を通して、地域の自然や文化を愛し地域の発展に貢献するとともに、自らの目標に向かって粘り強く努力し未来を切り拓くことができる人財の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
地域の未来を創造し、明日（あした）を創造（つく）る竜になる3つの「人財」を育てます。 ・天竜高生が付けたい8つの力※を備え、物事を探究しようとする「人財」 ・自己実現を目指して、常に努力し続けようとする「人財」 ・自己や他者、地域の自然や文化を尊重し、社会に貢献しようとする「人財」	個々のニーズに応じた3つの「学」を提供します。 ・基礎的な知識・技能の習得と活用を促す「学」 ・他者と協働しながら目標の実現を促す「学」 ・地域との連携をとおして、自分の成長を促す「学」	自分や人、生活する地域を大切にし、何事にも誠実に取り組む3つの「ひと」を求めています。 ・森林・環境科 自然と向き合い、環境に関わろうとする「ひと」 ・福祉科 人々と向き合い、他者と関わろうとする「ひと」 ・総合学科 自分と向き合い、社会に関わろうとする「ひと」

※天竜高生が付けたい8つの力

・理解力	書かれたものや話されたことを理解することができる。
・学力	高校生として必要な学力をつけることができる。
・リスペクト	自分や人、生活する地域を大切にすることができる。
・チームワーク	組織の一員として協働することができる。
・自律	自分をコントロールすることができる。
・コミュニケーション力	自分の考えを伝えることができる。
・向上心	目標を持ち、意欲的に努力することができる。
・適応力	様々な状況に適応することができる。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 基本的生活習慣を確立し、時間、マナー、ルールを守ることのできる生徒を育成する。（自律）
- イ 爽やかな挨拶を励行するとともに、感謝の気持ちを素直に表現できる生徒、他の生徒の努力を認めることができる生徒を育成する。また、いじめ、迷惑行為、暴力行為を絶対に許さない雰囲気醸成する。（リスペクト）
- ウ 個々の実態に応じた学習指導の確立と、新学習指導要領を踏まえた授業改善を推進する。（学力・理解力・コミュニケーション力）
- エ 授業、学習発表会、面接指導等を通じてコミュニケーション力を育成する。（コミュニケーション力）
- オ 語彙力、理解力、集中力を高め、柔軟な人間性を育む読書指導を推進する。（理解力）
- カ 個々の目標を明確にし、個に応じたきめ細やかな進路指導を推進する。（向上心）
- キ 学校行事、ホームルーム活動、清掃、部活動に積極的に参加する生徒を育成する。（チームワーク）
- ク ボランティア活動、校外活動に積極的に参加する生徒を育成するとともに、地域との連携、

様式第1号

- 系列・類型間での連携を積極的に行う。(適応力、リスペクト、チームワーク)
- ケ 生徒の学校生活を支えるため、健康教育活動を推進する。
- コ 保護者、地域に信頼される学校づくりを推進するため、本校の特色や教育活動を積極的に情報発信する。
- サ 教職員の資質向上を図るとともに働き方に関する意識改革を推進し業務分担の適正化を図る。
- シ 危機管理体制及び「命を守る教育」の充実を図る。
- ス 効率の良い業務遂行、業務改善に努め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全・安心な教育環境の整備充実を図る。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	基本的生活習慣を確立し、時間、マナー、ルールを守ることのできる生徒を育成する。	全職員が共通理解を持って指導に当たるとともに、校内外巡視や家庭との連携を通して校則遵守の必要性を生徒に理解させ、問題行動を未然に防ぐ。	問題行動発生件数 (年 10 件以内)	生徒課 教務課 各学年部
		登校指導と家庭との連携を通して、5分前行動を徹底させる。	遅刻者数 (前年比 20%削減)	
		スマートフォン・SNS の使用マナーを指導する。 スマートフォンの利用状況を調査し、指導に活用する。	情報講座の実施 (年 2 回) 使用状況調査導入	
イ	爽やかな挨拶を励行するとともに、感謝の気持ちを素直に表現できる生徒、他の生徒の努力を認めることができる生徒を育成する。また、多様性を尊重するとともに、いじめ、迷惑行為、暴力行為を絶対に許さない雰囲気醸成する。	朝の挨拶運動強化週間を設定し、自発的な挨拶の習慣化を図る。	朝の特別挨拶運動 (原則月 1 回)	生徒課 保健課 各学年部
		いじめ防止、暴力行為防止、マナー向上に対する指導方法を学ぶ。	外部研修会への参加、事後報告などを行う。(年 2 回)	
		ソーシャルスキルトレーニングを生徒が受講し、人間関係の構築方法を学ぶ。	ソーシャルスキルトレーニングを LHR にて行う。	
		定期的に担任が面談を行うとともに、学校生活に関するアンケートを実施する。	生徒面談実施 (年 2 回) 学校生活アンケート (年 1 回)	教務課 各学年部
		HR 活動を通して、努力している人を互いに認め合う雰囲気を醸成する。	HR ごとに MVP 表彰 (学期 1 回)	
ウ	個々の実態に応じた学習指導の確立と、学習指導要領を踏まえた授業改善を推進する。	「何ができるようになるか」を意識して授業を行うとともに、教員間の授業公開、生徒アンケートの分析等を授業改善に活かす。	授業が分かれると答える生徒 (80%)	教務課 各教科 各学年部 図書情報課
		「学びの基礎診断」の測定ツールを活用し、生徒に応じた指導の改善に努める。	2, 3 年生において前年 4 月成績と比較し D 層の生徒が減少する。	
		スタディサプリの活用を促進する。	各生徒が、スタディサプリの確認テストに年 20 回以上取り組む。	
			スタディサプリの確認テストマスター数が全校平均 80%以上	

様式第 1 号

		授業改善、I C T活用指導力の研修会を実施する。	ロイロノート、スタディサプリ、グーグルクラスルームを活用した授業を実施する教員（80％）	
エ	授業、学習発表会、面接指導等を通じてコミュニケーション力を育成する。	授業や HR 活動の中で、1 分間スピーチ、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に導入する。 生徒の適性・進路希望に応じた面接指導を実施し、自己表現力の向上を図る。	コミュニケーション力アップを実感する生徒（80％） 3 年全就職希望者対象の面接指導（年 5 回）	教務課 各教科 進路課
オ	語彙力、理解力、集中力を高め、柔軟な人間性を育む読書指導を推進する。	天竜文学賞を中心とした読書アクションを推進し、10 分間の朝読書を徹底する。 図書館表示を改善し、利用しやすくする。	朝読書を週 3 回実施する。 天竜文学賞実施	図書情報課
カ	個々の目標を明確にし、個に応じたきめ細やかな体系的・系統的なキャリア教育を推進する。	1 年次から生徒の希望や適性を踏まえた進路指導を行う。	進路希望調査（年 2 回）	進路課 地域協働センター 各学年部
		職業研究を深め、体験を通して自己の適正、興味、関心を探究する。	就業探究の実施	
		就職指導では企業開拓を行い、履歴書指導など就職希望者の指導体制の充実を図る。	就職内定率（100％）	
		進学希望者に対し、学力の伸長を促し、個々の受験形態に応じた進学指導体制の充実を図る。	希望進路達成率（90％）	
キ	学校行事、ホームルーム活動、清掃、部活動に積極的に参加する生徒を育成することで創造性を育む学びを充実させる。	学校行事・HR 活動への動機付けと広報を積極的に行い、参加意欲の向上を図る。	意欲的に取り組んだと答える生徒（85％以上）	生徒課 各学年部 保健課
		部活動では、生徒の主体的な活動を促すとともに、意欲の持続を目的として効果的に休養日（年 100 日程度）を設ける。	一生懸命取り組んだと答える生徒（80％以上） 年度当初に設定した目標を達成する部活動（70％以上）	
		清掃活動や厚生委員会を通して、校内美化に積極的に取り組む。	清掃活動（週 3 回）	
ク	地域の将来を担う人材を育成するため、生徒が地域活性化に主体的に取り組み、ボランティア活動、校外活動に積極的に参加する機会を創出するとともに、地域との連携、系列・類型間での連携を積極的に行なう。	地域と連携したボランティア活動や校外活動を推進する。	地域と連携したボランティア活動や校外活動に取り組んだ生徒（延べ 100 人以上）	地域協働センター 生徒課
		地域の関係機関と連携し、地域理解・探究に関する学習活動を推進する。	天竜区の未来を考える若者会議の実施（年 3 回） 地域との連携的な学習（年 50 回以上）	農業科 福祉科 総合学科 地域協働センター
		学科長と連携し、地域社会との連携を円滑に進めるための情報共有、情報交換、協力体制を構築する。	学科長との情報交換会の開催（年 3 回）	地域協働センター

様式第 1 号

		類型、系列間が連携した学習活動のあり方について検討し、実施する。	検討会議（年 3 回） 類型系列連携活動の実績（2 組）	農業科 総合学科 福祉科
ケ	生徒の学校生活を支えるため、健康教育活動を推進する。	「ほけんだより」による広報活動、各学年部の協力を得て受診指導を行い、心と体の健康管理を図る。	朝食摂取率 （90%以上） 各種疾病治療率 （65%以上）	保健課 各学年部
		特別な配慮が必要な生徒に関する情報を全職員で共有する。	ケース会議の実施 （年 2 回以上）	
コ	保護者、地域に信頼される社会とともにある開かれた学校づくりを推進するため、本校の特色や教育活動を積極的に情報発信する。	PTA と連携した教育活動の展開。	PTA 活動（年 8 回）	総務課
		地域や中学校に本校の教育活動を知ってもらうため、学校だよりを作成する。また、中学生・保護者対象の学校説明会を実施する。	学校だよりの発行 （年 10 回） 学校説明会開催 （年 2 回）	
		閲覧しやすく更新が手軽なホームページを構築し、積極的に更新するとともに、内容の充実を図る。	ホームページの更新 回数 170 回以上	図書情報 課
サ	教職員の資質向上を図るとともに、働き方に関する意識改革を推進し、業務分担の適正化を図る。	教科指導や生徒指導等に関する研修会を実施する。	校内研修会 （年 2 回）	教務課
		コンプライアンス意識の高揚を目的とした研修を行う。	不祥事根絶研修 （月 1 回）	管理職
		教職員の勤務時間の適正化を図るとともに長期休業中の休暇取得を促進する。	定時退勤の実施 （週 1 回） 夏季休暇取得促進期間の休暇取得率 （80%以上）	
		各分掌で、ICT ツールの活用等により、業務内容と分担の見直し、精選を図る。	業務総量を削減した分掌の割合 （80%以上）	管理職 各分掌
シ	危機管理体制及び「命を守る教育」の充実を図る。	交通安全指導、下校指導等を通じて、交通ルールやマナーに対する生徒の意識の高揚を図る。	重大交通事故発生件数（0 件） 街頭交通指導 （年 10 日）	生徒課
		防災計画や危機管理マニュアル等の共通理解を深め、訓練等を通して、生徒・職員の危機への対応力を高める。	防災訓練（年 2 回）	総務課 管理職
ス	ICT ツールの活用等により効率の良い業務遂行、業務改善に努め、安全・安心な教育環境の整備充実を図る。	ICT ツールの活用等により校務の DX 化を推進する。	ICT ツールの活用等による業務改善（年 2 件以上）	事務部 管理職
		法令に基づき、迅速で的確・適切な事務処理を行う。	定期的な検査等（指摘 0 回）	
		定期的に校内を巡視し、危険箇所等を早期に発見するとともに適切な施設管理を行う。	施設設備の点検 （月 2 回）	
			危険箇所の確認、迅速な修繕による危険回避（随時）	